

ミクストメディアによる彫刻作品の制作

Production of sculpture works by mixed media

市川 治郎
ICHIKAWA Jiro

キーワード：ミクストメディア、彫刻作品、制作
Keywords：mixed media, sculpture works, production

In Saint-Exupéry's masterpiece *The Little Prince*, he let his hero say: "What I'm seeing is just a container; the really important thing is something invisible in this."
I cannot help remembering this word whenever I create installation works. I bundle up the miscellaneous information in mesh patterns, which is the symbol of each country, and call it a worldwide web. Is our contemporary society bound up by mesh patterns?
I must be careful when I send my work to a museum because people tend to open up the bundle when it arrives. Once a friend of mine asked me jokingly, "Does it contain gold ingots?" That's right. What is really important is the invisible gold.

作品名「WORLD WIDE NETWORK」

大きさ (100 × 60 × 105cm)

素材 ミクストメディア

Title of work "WORLD WIDE NETWORK"

Size (100 × 60 × 105cm)

Material mixed media

Production intention

1. 制作意図

晋書に「棺を蓋いて事定まる」という有名な故事成語があるが、私はその意味を「覆いて後定まる」と解釈することにより、自らの作品制作の意図に位置付けてきた。

サン＝テグジュペリは代表作「星の王子さま」の中で「いまぼくが見ているのは、単なる入れ物に過ぎない。本当に大切なものは、この中に入っている目に見えない何かなんだ。」と主人公に述べさせた。私は彫刻作品を制作する時、この言葉を思い出さずにはいられない。

私が提示するのは各国スーパーマーケットの広告や雑多なニュースに包まれた段ボール箱である。

私はこの粗末な段ボール箱がとても大切だから嚴重にエアークラップで包みポリエチレンロープで縛る。

ポリエチレンロープは縦横側面に奇数列ずつ縛って網目状に保護する。なぜ奇数列なのかよく分からないが偶数列より安心できる気がする。

網目状に縛ることからネットワークである。

各国の象徴である雑多な情報を網目状に縛るのがワールドワイドネットワークなのである。

私たちの現代社会は網目状に縛られているのだろうか。

私はそれでも安心できないから ANA に搭乗した時もらった「fragile」タックシールを取り付けて注意喚起する。

展示する時にはさらに注意しなければならない。

美術館に搬入するとしばしば開梱されそうになる。

かつて友人から「その中に金塊でも入っているのか？」と冗談を言われたことがある。よくぞ気付いてくれた。全くあなたの言う通りである。

私はアルテ・ボーヴェラ様式の作家ではないから、作品制作には十分な材料代を費やすべきだと考える。

大切なのは私たちの目に見えない金塊なのだろうか。

さて本当に大切なものとは一体何なのだろうか。

2. 制作経過



図1 作品の中に収める1キログラムの金塊。

どのような物が彫刻の内部に納められていたとしても、制作者がそれを明らかにしない限り、外部からその事実を知ることとはできない。仏像の内部に納められた経典と同様である。

3. 制作経過 (1)



図2 段ボール箱を組み立て、外側に新聞紙や広告、雑誌などを貼り付ける。

私にとって外国の新聞は国際社会全体の象徴である。特に日本やアジア圏以外の外国誌には、なぜかよく分からないが引き付けられる魅力がある。それは私の日常感覚とは大きく異なる感性で構成されているように感じるからである。しかし困ったことに外国の新聞や雑誌はおもしろいので、制作しながらついつい読んでしまう。

米国のスーパーマーケットでは当然肉類は安い、さらに特売日には驚くほど安価で大量の食材が販売されていることが分かる。これでもかというぐらい菓子類がどぎつい原色で彩られており驚く。青色のクリームを塗ったケーキなど本当に美味しいのだろうか。色彩にも多様な国民性の違いが感じられる。

一方、ヨーロッパ諸国では全体として野菜類が高い。また表現方法が少し気取っていてお洒落である。米国の強引で押し付けがましい広告とは趣が異なり、アイロニーに満ちたものが多い。本当に売りたいのか売らないのか、目的がよく分からない芸術的な広告もある。成熟した社会では表現も思い切り遠回しになるのだろうか。

ともあれ、この制作段階には時間がかかる。気にして読まなければすぐにできるはずであるが。

4. 制作経過 (2)



図3 エアーキャップで全体を包む。

これは極めて重要な制作過程である。

かつて黒ビニールシートで全体を覆ったこともある。中に何が入っているか分からないという意味では、その方がより徹底していた。しかしエアーキャップによる半分透けた状態は、制作意図により適していると考えた。包む枚数は二重三重にすることもあれば、一枚だけのこともある。さらに不透明な世界を象徴したければ何重にも巻き付けるのが良い。いずれにせよ箱の内部は見えないのであるが。

5. 制作経過 (3)



図4 別角度から見たところ。中途半端な不透明感は、私のねらい通りである。

6. 制作経過 (4)



図5 ポリエチレンロープで外周を縛る。

これを縦横に縛り付けて、網目状にする必要がある。
網目状にしなければネットワークにはならない。
ロープにテンションをかけて縛っていくと、やがて私の
手指に水ぶくれが生じる。
日頃から大した労働もしていない証拠である。
それほど大変であるならエアークャップを巻き付けた
ままでもよいのではないか。
それではまったく駄目なのである。
しっかりとしたネットワークがないと、私はエアークャップを一つ一つ潰してしまうのである。
この素材がプチプチマットとも呼ばれる所以である。
だから縦横無尽のネットワークが重要なのである。

7. 制作経過 (5)



図6 別角度から。

8. 制作経過 (6)



図7 別角度から。

これだけしっかり全周を縛ると安心する。
まさかこんな状態で、中を覗いてみようとする人はいないであろう。
それでも油断してはいけない。
箱の内部に嚴重に隠したはずの、私の大切なものに気付く人がいるかも知れないからである。
作家たる者、何事にも用心深くなければならない。
かつて全体にナイロン網を被せてみたこともあった。
考え方は同じであるし、ネットワークには違いない。
しかし何となく漁業従事者の気分になったので止めた。
やはりネットワークは手作りに限る。
でも本当はもう少し均等な網目を作りたい。
それにはポリエチレンロープを張る力加減が難しい。
不揃いの網目が私の不器用さを暴露している。
世界を取り巻く不均衡なネットワークも象徴している。
現実社会の国際問題は重い課題ばかりであるが、私のネットワークに縛られた世界は軽い。
数年来の私の制作条件として、自分一人の力で持ち上げられる重量であること。自家用車で運べる大きさであることが絶対条件である。
そして素材は基本的に再利用すること。
昔制作した大型彫刻群は、置き場所に困った挙句、産業廃棄物として有料で捨てたことを反省している。
日本人であれば、そんな勿体無いことは繰り返せない。
だから私の作品は再び材料に戻って行く。
私の彫刻素材は再利用される。

9. 完成作品



図8 「WORLD WIDE NETWORK」の完成。

10. まとめ

私にとって大切なものが見えない現実世界。

本当に大切なものは目には見えないそうだから、見えなくても結構だという考え方。

世界的な広がりのあるネットワークに縛られて、何となく見えているような、見えていないような現実世界。

本当に大切なものは一体どこにあるのだろうか。

11. 参考文献及び資料

- (1) サン・テグジュペリ：星の王子さま、角川書店、2011.
- (2) M・A・ロビネット：屋外彫刻—オブジェと環境、鹿島出版会、1985.
- (3) 佐藤義夫：野外彫刻マニュアル—まちにアートを、ぎょうせい、1994.
- (4) 美術出版社編集部：現代美術事典—アンフォルメルからニュー・ペインティングまで、美術出版社、1984.
- (5) マルセル・ブリヨン：抽象芸術、紀伊国屋書店、1999.